

主体的・対話的で深い学びを目指した複式学習指導の校内研修の実際
～研修係としての取組～

鹿屋市立南小学校 教諭 増山 珠美

目 次

1	はじめに	1
2	実践テーマ	1
3	研究実践の視点	1
4	実践例	1
	(1) 今年度の研究のスタートに当たって	
	(2) 校内研修の実際	
5	これまでの取組をふり返って	9

【参考文献】

- | | | |
|---------------------------------|--------------|---------|
| ・『小学校学習指導要領解説 算数編』 | 文部科学省 | 平成 29 年 |
| ・鹿児島県総合教育センターホームページ『教育資料』 | 鹿児島県総合教育センター | |
| ・『子供に力をつける！算数科授業力アップ講座』資料 | 鹿児島県総合教育センター | 令和 2 年 |
| ・大隅学力向上リーフレット「わかった」「できた」を見届ける！！ | 大隅教育事務所 | 令和 3 年 |
| ・『小学校算数の授業づくり はじめの一步』 | 尾崎正彦 明治図書 | 平成 29 年 |

1 はじめに

2年9か月前、本校に赴任すると同時に研修係を務めることになった。当時、本校は児童数19人で、単式学級と複式学級であった。これまでに研修係の経験がない上に、少人数学級や複式学級の担任もしたことがなかった。具体的なイメージをもてないまま、戸惑いながらのスタートだった。

1年目は、短期研修で複式学習指導について学んだり、校内研修で講師の先生から御指導をいただいたりしながら、研究を重ねてきた。複式学習指導の授業を初めて見たり、学習指導案の書き方を初めて知ったりした一年であった。2年目は、校内研修で鹿屋市教育委員会より複式学習指導の基本について講話をしていただいたり、他校の複式学習指導の授業を参観したりしながら、まねできそうなことを本校のやり方で取り入れてきた。コロナ禍で研修の機会は少なかったが、視野を広げることができた。視野が広がってくると、本校の課題がより一層、具体的で明確になり、研究の必要性も更に実感するようになった。3年目は完全複式学級になり、これまで研究してきたことを全学年で実施することとなった。今後も完全複式学級が続くと予想されることから、過去2年間で積んできた研究をもとに、複式学習指導の土台を、教師・児童ともに固めていきたいと考えた。また、10月に、大隅地区研究協力校（「へき地・小規模校教育」）及び肝属地区複式教育研究会研究委嘱校として、研究公開も控えていたことから、研究発表や公開授業、研究紀要等の準備を計画的に進める必要もあった。

今回、研修係3年目の取組を中心に、本校の校内研修の実践について振り返ることとする。

2 実践テーマ

主体的・対話的で深い学びを目指した複式学習指導の校内研修の実際
～研修係としての取組～

3 研究実践の視点

- (1) 今年度の研究のスタートに当たって
- (2) 校内研修の実際

4 実践例

- (1) 今年度の研究のスタートに当たって
 - ア 児童や教師の実態・課題の整理

本校は、本年度から完全複式学級になったため、全学年でガイド学習を実施することになった。研究テーマを考案するに当たり、まずは年度初めの児童や教師の実態や課題について整理した。児童にはガイド学習や算数科に関するアンケートをとり、職員には日頃の児童の様子をもとに意見を出してもらった。

【表 1 児童や教師の実態・課題】

低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生は教師主体で授業を進めている。今後どのように複式指導を取り入れるか。 ○ 2年生は在籍1人で、多様な意見を引き出し、学び合うことが難しい。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガイド役に慣れてきている児童もいるが、自信をもてない児童も多い。 ○ 自分の考えを説明することが苦手で、自信をもてない児童が多い。 ○ 言葉だけの指示を理解することが苦手な児童が3人いる。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガイド役の基本的な役割には慣れてきている。一方で、ガイド役に不安を抱いている児童もいる。 ○ ガイド・フォロワーとして出された意見を整理したり広げたりすることが難しい。 ○ 自分の意見をもっているが、積極的に発表することが難しい児童が多い。
教師	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めての複式学級担任で、ガイド学習の進め方やガイド・フォロワーの育成の仕方が分からない。 ○ 間接指導時に充実した学び合いをさせるのが難しい。 ○ ノート指導が難しく、過去の担任によってそれぞれである。 ○ 自分の考えに自信をもてない児童が多く、発表が少ない。 ○ 教材研究や教具作りに時間がかかる。 ○ 算数の学習で、数学的な見方・考え方を踏まえた授業の展開の仕方が分からない。また、学習したことを生活で生かし、算数のよさを感じている児童が少ない。

イ 研究テーマ及び仮説、視点の設定

時代の要請、学習指導要領で求められている資質・能力についても整理し、それらに本校の実態を加え、令和3年度の校内研究の主題や仮説、視点を次のように設定した。

【令和3年度 校内研究主題】
 主体的・対話的で深い学びを目指す複式学習指導の研究
 ～数学的な見方・考え方を育む学習指導を通して～

<p>【仮説1】自分の考えを表現する場の設定</p> <p>複式学習指導において、考えを表現し合う場を設定すれば、自分の考えを広げることができ、深い学びにつながるのではないかと。</p>	<p>【仮説2】数学的な見方・考え方を働かせる工夫</p> <p>算数科において、数学的な見方・考え方を働かせる工夫をすれば、問題の解決に向けて見通しをもつことができ、主体的に解決しようとする児童が育つのではないかと。</p>
<p>【視点】</p> <p>(1) リーダー（ガイド）・フォロワーの育成 (2) 学習過程の工夫 (3) ICTの活用</p>	<p>【視点】</p> <p>(1) 発達の段階に応じた数学的活動 (2) 児童の思考の流れを踏まえたノート指導 (3) 学習環境の工夫</p>

ウ 研究組織の決定

研究を進めるに当たり、次のように組織を編成した。

(◎は責任者)

班名	班員	主な内容
理論・授業実践班	◎研修係 ○3・4年担任 ○5・6年担任	・研究推進 (方向性の立案・指導案など) ・授業実施, 改善
調査・資料班	◎1・2年担任 ○特別支援学級担任 ○養護教諭	・アンケート実施・分析 ・資料作成・環境整備

エ 研修計画の決定

研修計画を職員に提案し、以下のように決定した。10月に研究公開を控えていたため、例年2学期を中心に行っていた校内研究授業を、1学期に実施することにした。

【表2 令和3年度の研修計画】(抜粋)

※一般研修は省略

月	日	内容	主な研究内容・課題
4	6・12	○ 研究内容の共通理解	・ 転入職員を含む、本校の研究について説明 ・ 現在の課題や今後の検討事項の共通理解
	26	○ 班会	・ 各班の今後の活動計画立案, 全体への提案
	30	○ ICTに関する研修	・ ロイロノートの使い方を中心に研修 (ICT支援を講師招聘)
5	10・31	○ 研究授業A(高学年)に向けた模擬授業・指導案検討	・ 1回目は職員のみで検討(指導案の様式含む) ・ 2回目は教育事務所より講師招聘で実施
6	7	○ 研究授業A・授業研究	・ ガイド学習の様子を基に, 手引き作成の検討 ・ 算数科の授業の進め方を確認し, 共通理解
	10・21	○ 研究授業B(中学年)に向けた模擬授業・指導案検討	・ 1回目は職員のみで検討 ・ 2回目は教育事務所より講師招聘で実施
7	5	○ 研究授業B・授業研究	・ ガイド学習の様子を基に, 手引き作成の改善 ・ ICTの活用について見直し, 共通理解
8	夏季休業	○ これまでの研究の整理 ○ 研究公開に向けての提案 ○ 公開授業についての提案 ○ 校内の環境整備	・ 昨年度から現在までの研究について, 課題や成果についてのまとめと研究紀要作成 ・ 研究公開までの計画や分担について提案 ・ 公開授業の詳細決定, 指導案検討, 模擬授業 ・ 算数コーナーや掲示物等の整備
9	上~中旬	○ 研究発表の提案 ○ 研究公開当日について	・ 発表スライドの提案や改善 ・ 研究公開当日の日程や分担等の確認

月	日	内容	主な研究内容・課題
9	下旬	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公開授業の最終確認 ○ 研究紀要・研究発表の最終確認 ○ 環境整備の最終計画提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業の模擬授業と指導案検討（数回） ・ 研究紀要を職員へ配布及び確認 ・ 研究発表のリハーサル（講師招聘） ・ 校内の環境点検及び職員作業
10	月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究公開の資料印刷 ○ 授業研究の計画・打合せ ○ 公開当日の最終確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導案及び研究紀要の印刷と丁合，送付 ・ 研究協議についての方法や流れの最終確認 ・ 研究公開の日程や分担の最終確認 (校内及び関係機関への連絡)
	15	○ 研究公開当日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究発表，研究授業，授業研究，全体会 ・ 指導助言及び指導講話
	25	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究公開のまとめ ○ 研究授業C（低学年）に向けた模擬授業・指導案検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究公開の反省及び今後の研究について ・ 1回目は職員のみで検討 ・ 2回目は教育事務所より講師招聘で実施
11	1		
	8	○ 研究授業C・授業研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年におけるガイド学習についての確認 ・ これまでの研究を基に，今後の本校の授業改善に向けた共通理解
12	下旬	○ 2学期の研究のまとめ	・ 3学期に向けた研究の方向性についての整理
1～2月		○ 授業改善・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの研究を基に，授業改善を行う ・ 児童及び職員へのアンケート実施
3	月上旬	○ 研究のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の研究のまとめ ・ 来年度の研究の方向性について検討

(2) 校内研修の実際

研究を始めるに当たり，何をやるべきか，職員で話し合い，整理した。

複式学習指導に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複式学習指導の方法やポイントについての共通理解 ・ <u>ガイド学習の手引きの見直し（ア）</u> ・ <u>学習のしつけに関する手引きの作成（イ）</u> ・ <u>担任とリーダーの打合せの方法の見直し（ウ）</u> ・ 学習過程についての検討 ・ 学習形態について（ペア学習の取入れ） ・ ICTの効果的な活用について
算数科に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学習課題の設定の工夫（エ）</u> ・ <u>数学的な見方・考え方を引き出す発問の工夫（オ）</u> ・ <u>児童の思考の流れを踏まえたノート指導の共通実践（カ）</u> ・ 算数に関する環境の充実

これらの中から，主な実践例として，ア～カを挙げることにする。

ア ガイド学習の手引きの見直し

本校では、ガイド役のことをリーダーと呼んでいる。リーダー役に自信をもてない児童が多いことから、進め方の手引きを見直し、低・中・高学年ごとに作成した。

リーダーの進め方 No.1 南小3・4年		リーダーの進め方 No.2 南小3・4年		リーダーの進め方 No.3 南小3・4年	
学習内容	ガイドの進め方	学習内容	ガイドの進め方	学習内よう	ガイドの進め方
はじめる前	じゅんぴ ・ じゅんぴはいいですか。			れん習	れん習もんだいをとく ・ れん習もんだいをします。 ・ 時間は()分です。 ・ 終わった人は()をしてください。
つかむ	学習もんだいのかくにん ・ 今日のもんだいを観きましょう。 ・ わかっていることは何ですか。 （黒ばんに黄色で___線を引く） ・ たずねていることは何ですか。 （黒ばんに黄色で___線を引く）	ペアで交りゆうする	・ ペアを見つけて、交りゆうしてください。ペア交りゆうが終わったら、ホワイトボードに書いてください。 ・ ホワイトボードに書いた人は、黒板にはってください。	ふり返る	学習をふり返る ・ 今日の学習のふり返りをします。 ・ シートに書いてください。 ・ 書く時間は()分です。 ・ 発表してください。
めあてをきめる	・ 気づいたことはありませんか。 ・ ほんなめあてがいいですか。発表してください。 ・ ほかにありませんか。 ・ 今日めあては()でいいですか。 ・ ノートに書いてください。	深める	① 観たことを発表してください。 ② ホワイトボードを同じ考えごとに分けます。 ③ 分け方はこれでいいですか。 ④ このグループは()とまとめているですか。 ⑤ しつもんやけんはありませんか。 ※②～⑤をくり返す	<p>リーダーやく、よくがんばりましたね！ うまくできたところ、できなかったところをふり返り、次のリーダーやくの時に生かしましょう！</p> <p>前の時間のれん習問題がさいしよにあるとき</p>	
見通す	どんなほうほうでとけそうか ・ どのようにしてとけばいいと思いませんか。発表してください。 ・ ほかにありませんか。 ※発表がないときは… ・ 近くの人と話し合ってください。	学習のまとめをする	・ ()つの考えが出ましたが、どのようにまとめたらいいいですか。 ※発表がないときは… ・ どの考えが、はやく、かんたんで、分かりやすいと思いませんか。【はかせどん】	前の時間のれん習もんだい	前の時間のれん習もんだいをとく ・ 前の時間のれん習もんだいをします。 ・ 時間は()分です。 ・ 終わった人は()をしてください。
観べる	一人観べを始める ・ 一人観べを始めてください。 ・ 時間は()分です。		・ 今日めあては()でいいですか。 ・ ノートに書いてください。	導	・ じゅんぴはいいですか。
みんなに 聞こえる 声で 話そう！		はかせどん はやく・かんたん・せいかく・どんなときも			

【資料1 中学年用 リーダーの進め方】

手引きがあることで、リーダーが自信をもてるだけでなく、複式指導が初めての担任にとっても、リーダー育成の指導に役立つものとなった。

イ 学習のしつけに関する各種手引きの作成

リーダーの育成とともに、フォロアーの育成も大事である。フォロアーはリーダーに協力し、全員で学習を進めていく自覚をもつことが重要である。そこで、リーダーとフォロアーのやりとりが円滑に進むように、各種手引きを作成した。手引きは教室の前後の壁に掲示し、児童が意識できるようにした。作成した手引きは、以下のとおりである。

【表3 作成した手引きとその成果】

資料名	手引きのタイトル	実践の成果
資料①	聞き方あじさい	リーダーの指示や友達の発表を聞こうとする構えが身に付いてきた。
資料②	話し方ひまわり	聞き手に分かりやすく指示したり、発表の際に分かりやすく伝えようとしたりする姿勢が身に付いてきた。
資料③	うなずき方 あいうえお	友達に反応してもらえることで安心して発表できるようになった。形だけのものにならないように、留意した。
資料④	伝える前に じゅんぴをしよう	発表前に考えを整理したり、聞き手の立場に立って伝え方を工夫したりするようになった。
資料⑤	交流のドーナツ！	意見のやりとりの流れが分かるだけでなく、最後に相手の考えを自分の言葉で復唱する活動を入れることで、より相手の考えを真剣に聞こうとする姿が見られるようになった。

①

き かた 聞き方あじさい

あ あいてを見て

じ じぶんの考えと くらべながら

さ さいごまで いっしょうけんめい

い 「いいね」「なるほど」と うなずいて

②

はな かた 話し方ひまわり

ひ ひと言ひと言 はっきりと

ま まわりに聞こえる 大ききで

わ わかりやすく ていねいに

り りゆうをきちんと 伝えよう

③

うなずき方あいうえお

あ ああ わかった

い いいね なるほど

う うんうん

え えっ そうか

お おお すごい

④

伝える前にじぶんしをしよう(5・6年)

伝えることをえんげう。

- だれに、なんのために伝えるのかな？
- 伝えるのにひつようなのは、どのぶぶんかな？
- 話すだけでなく、相手に伝えるために見せるとよいものはないかな？

伝えることの中心を考えよう。

- やってみたことや理由も話そう。
- 伝える目でききもとに、一番言いたいことを考えよう。
- 事実や感想、意見をそれぞれ整理しよう。

伝えることのじぶんしを考えよう。

- けつらん「～だと思えます。」
- 理由「それは～だからです。」
- けつらん「だから、～だと思えます。」

⑤

交流のボーナス！

花蓮の考えや思いを！ だげおる。

どうやって？ といったの？

どうして？ そう考えたの？

花蓮の考えや思いを！ だげおる。

空るほど！ 考えたんだけ、空って！

花蓮の考えや思いを！ だげおる / 言いつえおる。

つまり、こういうことかな？

【資料2 手引き①～⑤】

このような手引きを使うことで、フォロアーが受け身になるのではなく、リーダーに協力し、全員で学習を進めるという意識をもつことができるようになった。また、担任にとっても、フォロアーの育成の手掛かりになり、指導が円滑になったとのことだった。また、交流する際に、どのように進めればよいのか、型があることで話し合いが活性化してきている。

ウ 担任とリーダーの打合せの方法の見直し

複式学級の担任の悩みの一つに、リーダーとの打合せに時間がかかるというものがあった。これまで、本校では打合せの仕方は統一しておらず、担任に任せていた。しかし、児童にとっては初めての、または1年ぶりの複式学習となる学年があり、年度初めは打合せに時間を要していた。複式学級の担任にとって、休み時間は、次の授業のICT機器や板書の準備を二学年分しなければならない、貴重な時間である。少しでも効率的に打合せをできないか、職員で検討した。また、実態調査より、打合せをしても、聞くだけの指示では理解が難しい児童がいることから、視覚的な支援も含めたものを考案した。それが「算数うちあわせシート」である。

(3)年生 算数うちあわせシート 6月4日 曜日 2時間目 教科書(63)ページ

リーダー(○○○)さん ようしくね！

準備する人…先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

みんなの215円のポストと143円のポストを買いました。合わせて何円になりましたか。

①式もノートに書く → 発表

② だいたい 何円になりそうか？

おぼそ()円

気づいたこと

発表が早い時 2年生で学習した時と、どう違うかな？

めあて ※みんなで作る

話し方 先生と

自分の考え

- ヒントコーナー(プロックボード(一十百並))
- 一人→ペア→全体
- ほみせん

まとめ ※みんなで作る

たしめ

- 2問(P64の①②)

れん習もんだい

- プリント1まい → うらに答え
- すんだら 針ドリ ②

- リーダーの名前を入れ、自覚をもたせる。
- リーダーへの指示は箇条書き、または短い文で書く。
- どの過程が直接指導や間接指導なのか、蛍光ペンで色分けし、45分間の指導形態の見通しをもつことができるようにする。
- 意見が出ないときの指示や学び合いのヒントも記入しておく。

【資料3 「算数うちあわせシート」の活用例】

このシートを活用することで、打合せの時間が短縮され、なおかつ、児童にとっても分かりやすいとのことだった。リーダー役に自信のない児童にとっても、45分間の活動をイメージでき、手元に置いておくことで、いつでも流れを確認できるとのことだった。

エ 学習課題の設定の工夫

算数科の学習において、学んだことを生活で生かすことや、生活の中で算数が生かされている場面やそのよさに気付くことは、とても重要である。児童が算数の学習を、もっと身近に感じ、見通しをもって解決しようとする主体性を育むことの一つとして、数学的な活動を取り入れることを研究した。

【3年生の実践例】 単元名「表とグラフ」(7月5日5校時 実施)

【教科書の問題】

右の表は、9時から9時5分までに学校の前を通った自動車の記録です。この記録について考えましょう。

【身近な問題として】

河野先生の家近くの、なぜうるさいのだろう。
→ 車の種類や台数を調べると、分かりそうだ!

ある日曜日の朝、担任が、家の近くの騒音のせいで、朝寝ができなかったエピソードを基に、授業を計画した。児童は目を輝かせ、その秘密を探っていた。正の字のよさや整理の仕方について学習し、完成した表を見ながら、なぜこのような結果なのか考察することができた。また、練習問題で、「サザエさんの好きなキャラクターランキング」を作成した。(事前に全校児童に投票してもらった。)投票結果を正の字で調べ、順位を基に、なぜこのキャラクターが人気なのか、みんなで考えた。学習したことを定着させるだけでなく、投票結果など身近なことにも使えることに気付かせることができた。

【資料4 ランキングを作るワークシート】

オ 数学的な見方・考え方を引き出す発問の工夫

算数科において、問題を解決するために明確な見通しをもつことは、児童の主体性を持続させるだけでなく、対話的な活動や深い学び合いにも結び付く。そのためには、児童が、何に着目し、どのように考えていくのかが重要であると考えた。そこで、本校では、数学的な見方・考え方を働かせるために、教師の発問が大事になると考え、目的別に発問を整理した。

【表4 数学的な見方・考え方を引き出す発問例】(抜粋)

目的	主な発問例
見方に着目させる	<ul style="list-style-type: none"> ・何を見たらいいのかな? ・どんな特徴があるのかな? ・〇〇さんは、どうしてこのように考えたのかな?
考え方を意識させる	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように考えたらいいいのかな? ・なぜそのように考えたのかな?

目 的	主な発問例
帰納的な考え方を引き出す	・(複数の情報から) 共通点やきまりはないかな？
演繹的な考え方を引き出す	・いつもこうなる理由はなんだろう？
統合的に考えさせる	・まとめていえることはないかな？ ・分かったことを式や数で表せないかな？ ・これまでと同じ(違う)ところはあるかな？ ・「はかせどん」で考えると、どれが一番いいかな？
発展的に考えさせる	・条件を変えたらどうなるかな？ ・学習したことが、どんなところで使えそうかな？

整理した発問表を各学級にラミネートして配布し、担任がいつでも使えるように手元に置くようにした。「数学的な見方・考え方を働かせた授業の展開の仕方がよく分からない」という悩みを抱えている担任にとっても、授業を組み立てる際のヒントになるということだった。また、複式学習指導は、直接指導の時間が限られているため、発問の精選は大変重要である。教材研究や発問を絞る際の手掛かりにもなっている。

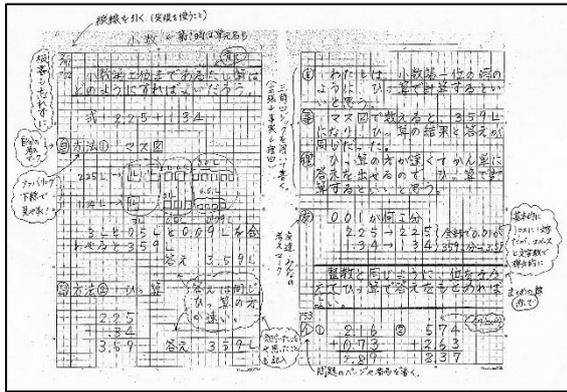
カ 児童の思考の流れを踏まえたノート指導の共通実践

これまで本校では、ノート指導については各担任で行っており、統一されていなかった。しかし、授業のノートには、児童が調べたことや学んだことが具体的な形として残されていることが重要であり、6年間を通して同じきまりに基づいて記録していくことが必要であると考えた。まずは児童が使っている実際のノートを持ち寄り、どのようなことを共通実践していくか、職員で話し合った。

【表5 本校の児童のノートの実態と共通理解・実践の内容】(抜粋)

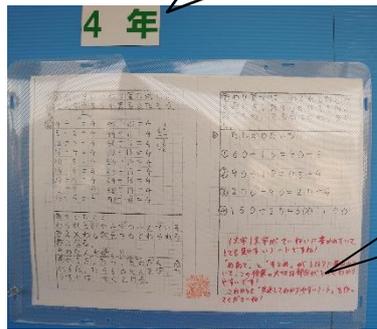
当時の実態	共通理解・実践したこと
前の授業で書き終わったところから続けて使っている学級と、新しくページを変えている学級がある。	1単位授業のノートは、基本的には見開きで2ページとする。めあてが常に左のページの上にあるようにする。
学習課題をノートに書いている学級と、書いていない学級がある。	基本的に学習課題は書かない。ノートに残しておいた方がよいと思われる場合は、書かせる。
児童がどのように解決したのか、その過程が書かれていない。	ノート指導を統一する段階で、研究していく必要がある。
直線を引く際に定規を使っていないものや、文字が雑なものがある。	記入する際の基本的な決まりを見直すとともに、定期的にノートを点検する。

最も話題になったのが、児童の思考の過程が記録されていないことだった。また、ノートを丁寧に書く習慣を付けることも必要であると、再確認した。話し合いを踏まえ、本校のノートの書き方のきまりを作成し、児童への指導を行った。



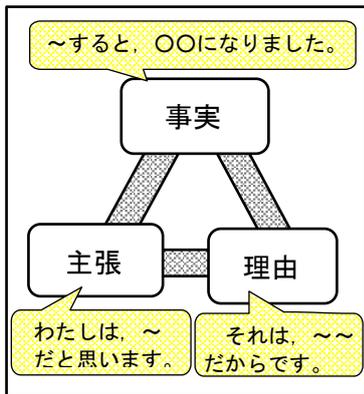
【資料5 ノートの書き方の手引き】

各教室の廊下の算数コーナーに掲示



ノートの書き方のよいところを具体的に称賛しているメッセージ

【写真1】 児童の書いたノートの掲示



【図1 三角ロジックに基づいた書き方】

手引きを用いて児童と書き方を確認し、担任が定期的にノートを集め、チェックするようにした。また、ノートに自分の考えを記入する際は、「三角ロジック」を意識させるようにした。まだ「事実」と「理由」の区別が難しい児童もおり、そのような児童には、まずは主張と事実、または主張と理由を書くようにしている。担任は、算数コーナーに児童のノートのコピーを掲示し、よくできているところを具体的に称賛するコメントを記入するようにしている。掲示された児童の励みになることはもちろん、それを見た他の児童が、書き方を学んでいる姿が見られる。

5 これまでの取組をふり返って

10月に研究公開を実施し、各校からの参加者との協議や、指導助言、指導講話により、様々なことを学ぶことができた。それらも含め、これまでの研究を振り返り、成果と課題を整理した。

(○成果 ●課題)

- 各種手引きを活用することで、リーダー役に自信をもてる児童が多くなった。また、リーダー役を務める際に、一方的なリードではなく、フォロワーとしての立場を意識したガイド学習を行うことができるようになってきている。(児童へのアンケート結果より)
- 算数科の授業において、教師の数学的な考え方・見方への意識が高まることで、問題解決の際に、児童が明確な見通しをもつことができるようになった。これらが日々の学習やNRTの結果に、成果として表れている。
- 本校では、同時間接指導中心の授業も少しずつ導入している。ガイド学習に慣れている高学年を中心に行っているが、まだ児童だけでは深い学び合いが難しいのが現状であるので、今後も研究を続けていく必要がある。また、それに応じた年間指導計画の作成を進める必要がある。
- ノート指導に関して、自分の考えを筋道立てて分かりやすく書くことを苦手としている児童もまだ多い。思考の流れが分かるノートについての指導の工夫も、今後研究が必要である。
- 現在、算数科を中心に研究を進めており、今後、他教科における研究も進めていく必要がある。

今後も、主体的・対話的で深い学び合いを目指した複式学習指導が実現できるよう、研究を重ねていきたい。